歩行車（CCTA コード　１２０６０６）

ウォーキーコンパクト　取扱説明書

このたびは、ウォーキーコンパクトをお買い求め頂きまして誠にありがとうございます。
本製品のご使用前には必ず「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しく安全に使用してください。
また「取扱説明書」は必要なときに取り出しやすい場所に保管してください。
使用環境や使用者の身体状況が変化した際には再度お読みください。

目　次

安全にお使いいただくために・・・・１
・歩行の際について・・・・・・・・２
・座る際について・・・・・・・・・３
・保管、搬送について・・・・・・・３
各部の名称・・・・・・・・・・・・４
組み立て方
・ハンドルの高さを調節する・・・・５
・シートの高さを調節する・・・・・５
・サイドキャップの取り付け方法・・６
・フレームの広げ方・・・・・・・・６
・フレームの折りたたみ方・・・・・７
・カゴの取り付け方法・・・・・・・８
・酸素ボンベホルダーの取り付け方法９
使い方
・ブレーキのかけ方・・・・・・・１０
・ブレーキの調整方法・・・・・・・１１
日常のお手入れ・・・・・・・１２/１３
仕様・・・・・・・・・・・・・・・１４

ラック ヘルスケア株式会社

コード No.2014.7

安全にお使いいただくために

使用上の注意

●ウォーキーコンパクトは使用者自身の歩行を補助する為のものです。用途以外の使用はしないでください。
●自力で歩行できない方は使用しないでください。
●ハンドル操作、及びブレーキ操作ができない方は使用しないでください。
●歩行の際は、必ずハンドルグリップを持って使用してください。
●使用者に合ったハンドルの高さに調節してからご使用ください。
●使用前には必ずブレーキ及びパーキングブレーキの効き具合を確認してからご使用ください。
●砂、泥、水たまりなどのある場所での使用は故障の原因となりますのでおやめください。
●未舗装または凹凸の多い路面での使用は転倒につながる恐れがありますのでおやめください。
●交通量の多いところ、混雑しているところ、また夜間の使用はできるだけ避けてください。
●踏切などの溝を越える際は、前輪キャスターを挟み込まないように前輪を上げて操作しください。
●保管の際は雨ざらしにせず、直射日光を避け、高温にならないところに保管してください。

⚠ 警告　この表示項目を守らずに誤った取扱をすると重大な事故につながり、使用者が重傷を負う恐れがあります。

⚠ 注意　この表示項目を守らずに誤った取扱をすると使用者が傷害を負ったり、物的損害をこうむる恐れがあります。

【歩行の際について】

⚠ 警告

●かご以外のところに荷物を載せたり、ハンドルに吊り下げますと、バランスを崩し転倒する恐れがありますので、絶対にしないでください。

●かごに乳幼児を乗せたり、座面に人を乗せたまま歩行しないでください。バランスを崩して転倒し、ケガをする恐れがあります。

●雨や雪、風の強い日、凍結している道、滑りやすい場所でのご使用はバランスを崩し転倒する恐れがありますので、絶対に避けてください。

●座面に立ち上がったり、踏み台代わりにご使用になりますと非常に危険ですので絶対にしないで下さい。バランスを崩し転倒する恐れがあります。

●傘をさしながら、または片手に荷物を持ちながら、片手ハンドルでの歩行はしないで下さい。バランスを崩し転倒する恐れがあります。

●背ベルトを持って立ち上がったり、持ったまま使用しないで下さい。過度な力が繰り返し加わると、亀裂などに発展しベルト破断による事故につながる恐れがあります。

⚠ 注意

●小さな凸凹や段差のある路面を歩行する際は、前方に転倒しないように前輪を上げて操作してください。

●使用中に身体を乗り出すなどして、安全性を損なうことのないように操作して下さい。

●ブレーキを握った状態、ならびにブレーキロックをした状態のままで歩行しますと、タイヤが異常にすり減って危険です。このようなご使用はしないでください。

【座る際について】

⚠ 警告

●座る際は、ブレーキが完全にロックされた状態で車輪が動かないことを確認してください。車輪が動くとバランスを崩し、転倒する恐れがあります。

●ブレーキがロックされた状態でも背ベルトに寄りかかるような座り方をしないでください。車輪が滑って転倒する恐れがあります。

●坂道で腰をかけると大変危険です。バランスを崩し転倒する恐れがありますので、決してしないでください。

●座面に座った時、本体を動かさないようにしてください。バランスを崩し転倒する恐れがあります。

●ブレーキロックが効いた状態でも、ハンドルの片側に寄りかかって座ると車輪が滑って転倒する可能性があります。両手でハンドルをしっかり持ち、中央にお座りください。

●立ち上がる際にハンドルの片方だけに体重をかけると転倒する恐れがあります。
両方のハンドルにバランスよく体重をかけ、ゆっくり立ち上がってください。

【保管、搬送の際について】

⚠ 警告

●背ベルトに過度な力が繰り返し加わると、傷、割れ、亀裂などに発展し、ベルト破断による事故につながる恐れがあります。

⚠ 注意

●背ベルトに過度な力が繰り返し加わると、傷、割れ、亀裂などに発展し、ベルト破断による事故につながる恐れがあります。梱包する際は必ず背ベルトを取り外してください。

各部の名称

【酸素ボンベホルダー付き】

附属品

サイドキャップ（６個）

カゴ（1 個）

酸素ボンベホルダー

組み立て方

【ハンドルの高さを調節する】

図１

黒色の高さ調節ノブを矢印の方向へ引き、ハンドルをスライドさせて高さを調節します。カチッと音がすれば、固定された状態となります。

⚠注意　調節後はしっかり固定されていることを必ず確認してください。

⚠注意　左右同じ高さに設定してご使用ください。

～ハンドル高さ調節の目安～
肩をリラックスした状態でウォーキーコンパクトの後ろに立ち、手首の位置にハンドル高さを合わせるのが　調節の目安となります。

～ハンドル高さの調節はパーキングブレーキを解除してから行ってください。

＊ハンドル及びシートの高さは医師や理学療法士、作業療法士等の専門職の指示に従い調節することをおすすめします。

【シートの高さを調節する】

図２

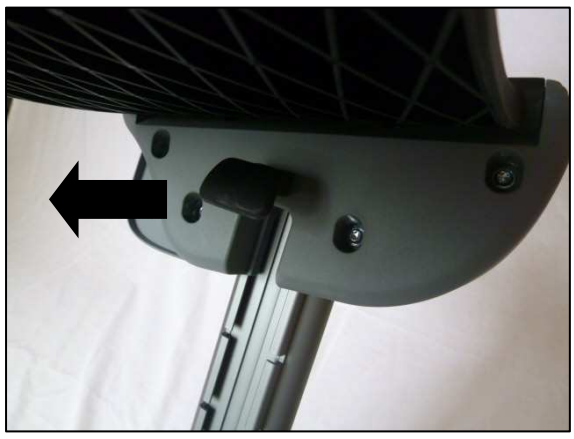


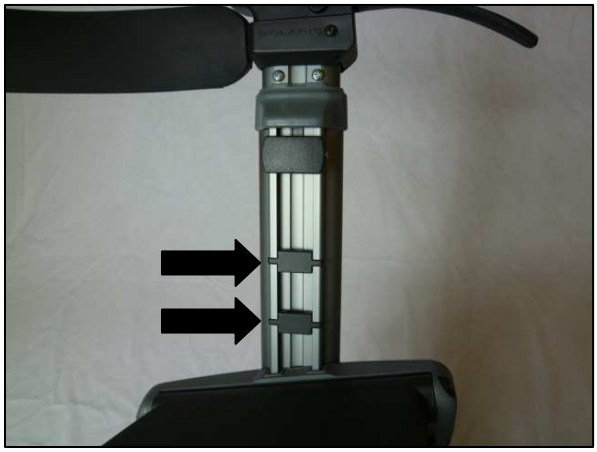
図２のように、シート下にある黒色の固定ノブを矢印の方向（シート中心方向）へ引きながら、左右片側ずつシートをスライドさせて　シートの高さを調節してください。カチッと音がすれば、シート高さが固定された状態となります。

⚠注意　調節後はしっかり固定されていることを必ず確認してください。

⚠注意　シートは必ず左右同じ高さに調節してください。

【サイドキャップの取り付け方法】

図３

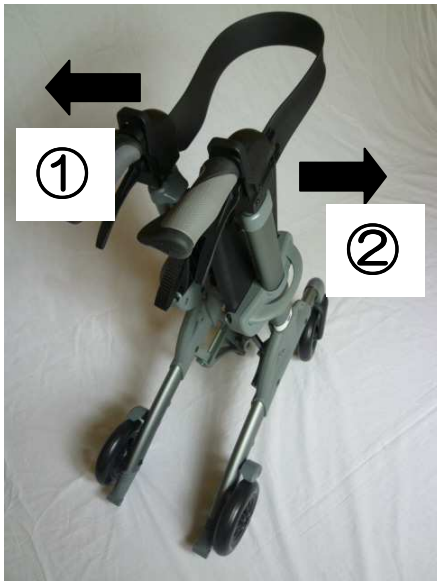


ハンドルの高さの調整後、サイドフレームの溝にサイドキャップ（矢印）を取り付けます。

サイドキャップがカチッと音がするように、フレームにはめてください。

【フレームの広げ方】

図４



① 図４のように、１の矢印方向へ本体を数センチそっと傾けてください。

②もう片側のハンドルを２の矢印方向へ押し広げてください。ばねの力で簡単に開くことができます。

② に、本体フレームをロックするため、図５のようにシートの真ん中を矢印方向へ押し下げてください。

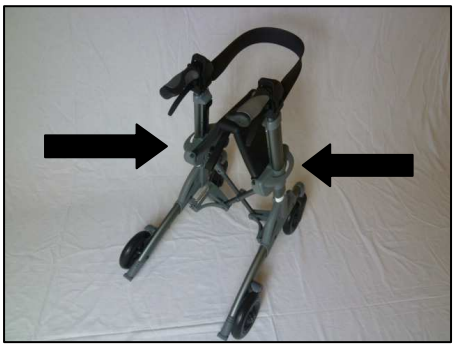
図５

【フレームの折りたたみ方】

図６

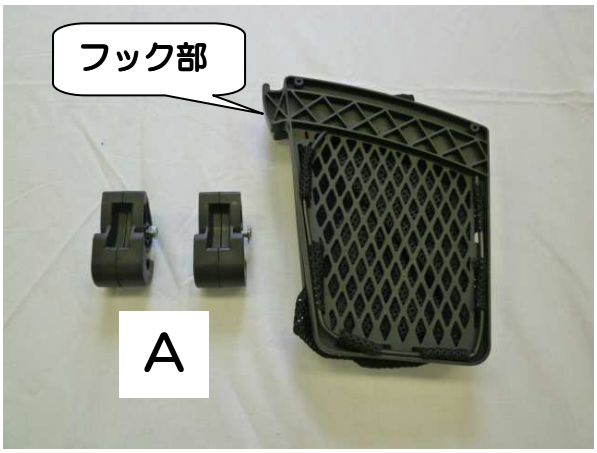
① 図６のようにシート中央の黒のストラップを引き上げてください。

図７



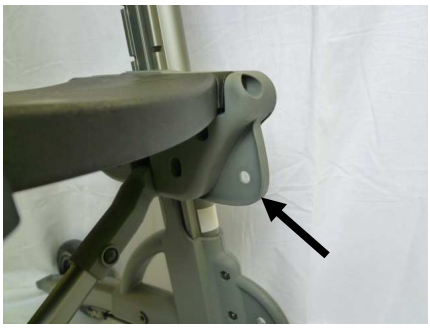
② 次に、図７のようにフレームの両側から折りたたむように押してください。

【カゴの取り付け方法】



①パーツＡを下記手順にて本体フレームに取り付けてください。

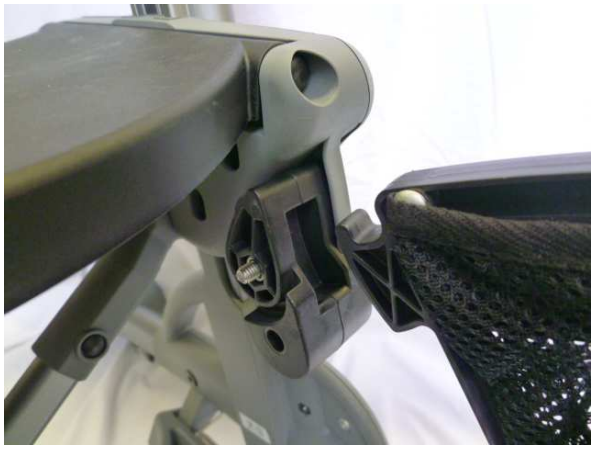
パーツＡ取り付け手順



矢印部分にパーツＡを取り付ける。

フレーム外側からボルトを差し込み、パーツＡにはめ込んだナットに締めこむ。

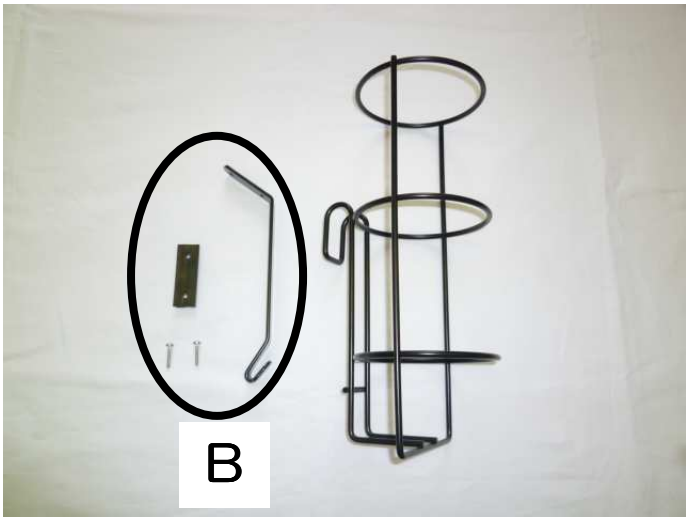
パーツＡの取り付け完了。



②取り付けたパーツＡにカゴのフック部を差し込み引っ掛けることで、カゴを取り付けてください。

＊ご使用前に必ずカゴがしっかり取り付けられていることを確認してください。

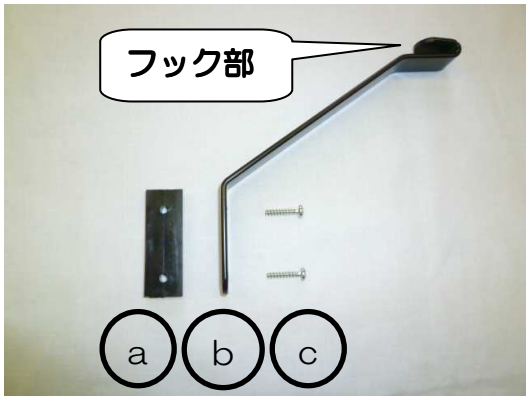
【酸素ボンベホルダーの取り付け方法】



①パーツＢを下記手順にて本体座面
下側へ取り付けてください。

パーツＢ取り付け手順

ネジ「c」で取り付け



本体座面下側白丸のネジ穴部分に「a→b」の順になる様に「c」のネジで固定する。
「b」フック部は以下完成図の向きになる様に注意する。

完成図

パーツＢ取り付け完成図。
（向かって左が前輪側）

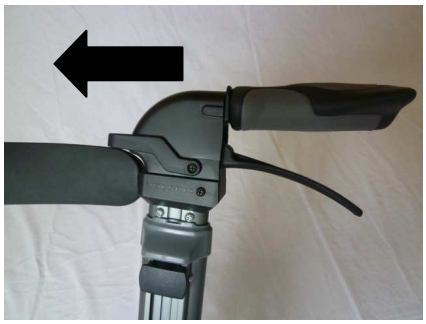
座面前側の穴とパーツＢフック部の２カ所に引っ掛けることで酸素ボンベホルダーを取り付けする。

使い方

【ブレーキのかけ方】

●パーキングブレーキのかけ方

図８



① 図８のように黒色のパーキング　レバーを押し下げると、後輪が固定されます。

⚠注意　シートに座る際は、パーキングブレーキをかけ、腰掛ける前に必ず後輪が固定されているか確認してください。

図９

② 固定を解除するときは、図９のようにパーキングレバーを上向きに引き戻してください。

⚠注意　パーキングレバーは“カチッ”と音がするまで戻してください。

※パーキングブレーキがかかったままで走行することのないようにしてください。

●歩行時のブレーキのかけ方

図１０

図１０のように、ハンドル下部のブレーキ部を握るとブレーキがかかります。

【ブレーキの調整方法】

図１１

① パーキングブレーキレバーを上に戻し、
パーキングブレーキを解除します。

② 図１１のネジ（〇の中）を緩めてください。

③ 図１１のネジを緩める(左に回す)と
ブレーキが強くかかるようになり、
ネジを締める(右に回す)と弱くなります。

④ ブレーキパッドと
キャスターの間の距離を確認してください。
距離は１mm 程度となるように調整して
ください。

⑤ 調整後、ネジを締め固定してください。

⚠注意　調整後は必ずブレーキ及びパーキング
ブレーキの効き具合を確認してください。

⚠注意　ブレーキを強く調整しすぎると、
パーキングブレーキがかからなくなることがあ
りますので注意してください。

＊ ブレーキ調整が不可能な場合やご不明な場合には、販売店もしくは弊社まで
ご連絡ください。

連絡先：ラックヘルスケア株式会社　大阪　０６－６２４４－０６３６
東京　０３－５４１９－８０５０
九州　０９６－３４０－８１０１

日常のお手入れ

●メンテナンス

長くご愛用いただけるよう、定期的なメンテナンスをお勧めします。

●清掃について

車輪、プラスチック部品、金属部分の汚れは、水を含ませてよくしぼった布でふき取ってください。ひどい汚れは薄めた中性洗剤を含んだ布で拭いた後、水を含ませてよくしぼった布で数回拭きとって下さい。

> ⚠注意　本体の清掃に中性洗剤以外のものを使用しないで下さい。
> 部品の変質、劣化の原因になります。

> ⚠注意　ブレーキパッドとキャスターの間に泥などの汚れが付着していないか確認してください。泥や汚れによりブレーキの効きが悪くなる恐れがあります。

＊高圧洗浄や家庭用ホースを使っての洗浄もお勧めです。洗浄後は拭き仕上げをしてください。

●ブレーキワイヤーへの注油

清掃後、後輪部のブレーキワイヤーに注油してください。
図１２の〇で囲まれた２カ所に注油ください。

図１２

●不具合のチェック

・本体を左右に操作し、キャスターおよびフロントフォークが円滑に回転していることを確認してください。

・キャスターおよびフロントフォークの付属ネジが適切に締められてがたつきがないか確認してください。

・ブレーキパッドとキャスターの間に泥や汚れが付着していないか確認してください。

●ブレーキがきかなくなったら・・・

・ブレーキワイヤーがブレーキハンドルおよびブレーキアームから外れていないか確認してください。

・ブレーキをかけた際に、ブレーキアームおよびブレーキパッドが正しく作動しているか、また、タイヤとブレーキパッドの間に汚れが付着していないか確認してください。

・ ブレーキワイヤーがブレーキハンドルおよびブレーキアームに固定されているか確認してください。

・ブレーキバッド部のバネが破損していないか確認してください。

・ ブレーキをかけたときにブレーキパッドがタイヤを押し付けているか確認してください。

⚠ 注意

製品の安全性を維持する為にも決して分解はしないで下さい。

⚠ 注意

タイヤの磨耗、ネジ類のゆるみ、部品の破損および作動不良がないかを適時点検し、必要に応じて交換をして下さい。

⚠ 警告

製品の破損や異常を発見した場合は、ただちに使用を中止しお買い求め頂いた販売店もしくは弊社までご連絡ください。
そのまま使用しますと重大な事故につながる恐れがあります。

連絡先：ラックヘルスケア株式会社　大阪　０６－６２４４－０６３６
東京　０３－５４１９－８０５０
熊本　０９６－３４０－８１０１

仕　様

全幅	530 ㎜
全長	620 ㎜
シート高	430～570 ㎜
ハンドル高調整域	730～890 ㎜
本体重量	7.3 ㎏
耐荷重	約１２５㎏

＊カゴ付き・酸素ボンベホルダー付きの仕様は同様となります。

LAC

ラック ヘルスケア株式会社

大阪　〒542-0081
大阪市中央区南船場 2-10-2
TEL：06-6244-0636　FAX：06-6244-0836
東京　〒108-0014
東京都港区芝 3-43-16 KDX 三田ビル 11F
TEL：03-5419-8050　FAX：03-5419-8051
九州　〒862-0924
熊本市中央区帯山 2-1-23 パークヒル帯山
TEL：096-340-8101　FAX：096-340-8102